≪ベトナムの戦雲天の川曇る≫

夜空を美しく彩る天の川。人間社会の喜怒哀楽なんと少つぽけなことよ。今夜も天の川は美しく神秘な光を人間社会に投げかけている。きつとあの輝きの下で，ベトナムでは血なまぐさい戦いが時終るともなく繰り返されている。平和な夏の夜はさらに美しい。早く人間の世界にも平和が訪れることを切である。

≪子の夢をのせて七夕ササゆれる≫

昔は，めつたに見られなくなつた七夕様の行事の一つ。飾り，昔は家ごとにきれいに飾つて願を祝つたものである。今では小学校や幼稚園などで子供達がささやかに竹飾りを笹の葉サラサラと七夕の歌をうたうようである。その他は商店などの客寄せの行事になつたようである。

≪人工の星もお仲間銀河晴れ≫

昔は宇宙時代，人工衛星が数多く発射され夜空に輝やく無数の星の一つとして，澄んだ夜空に輝やいているかも知れない神秘な夜空が人類の科学の手で開発されようとしている。

≪七夕の県都黄門さまの汗≫

商店街の夏の行事の一つとしての七夕祭り。仙台や平塚市の七夕祭は全国でも有名である。わが水戸市においても月遅れで七夕祭りが，黄門祭と同時に行なわれる。市長も黄門市長として有名になつたそうな。地下に眠る黄門さまは，世の移り変りをどんな思いで眺めていることやら。

≪夏祭り太鼓の音もなく終り≫

≪夏祭り世代の相違神輿錆び≫

社会の目まぐるしい移り変わりは，古来から伝わつて来た仕きたりや，懐しい行事などを遠い過去のものとして忘却の彼方に押し流してしまつて，古老達を嘆げかせているようである。

夏ともなれば，遠くに，近くに夜の静けさを破つて聞こえてきた太鼓の音に夏祭りの存在を確認したものであるが，生活の激しさは，若者達を村から追いやつて，太鼓も，おみこしも，村の鎮守の奥深く眠つて埃をかぶつていることだろう。お祭りはもう過去のものとなつてしまつたのかしら。

≪おおぴらに裸になれる海があり≫

海が呼ぶ，真夏の炎暑，不快指数が上昇する湿気の多い暑さが，一時の涼を求めに海へ大勢の客をひつぱり出す。青い海原，砂を噛む白波，焼付ける砂浜に裸ん坊が右往左往群れ遊ぶ海水浴風景，この暑さに子供達は一日中海から離れようとしないで大人達を困らせるようである。

≪夏がきたサア海の街稼ぎ溜め≫

海水浴シーズンが近づくと，海水浴場のある町では，いろいろの趣好をこらして客を誘引する。

一年の大きな牧入源である海水浴客を当てこんで，街が活気を呈する。しかし今年のように梅雨が長びくような夏になると当が外れ，お天気がうらめしくなる。

≪シヤナリシヤナリ潮に濡らさぬ水着派手≫

≪波ドントドンと水着をなめて逃げ≫

海水浴場は，レジヤーブームにのつて水着も派手に，色とりどりの水着が砂丘に花と咲く。水着も特に女性のものは年々流行で新らしい形が，色が男性の目を楽しませてくれる。

≪真黒く水着の形だけ残し≫

裸ん坊が照りつける炎熱の砂の中で，甲らを干して真黒に日焼して帰る。子供達が自慢する黒ん坊くらべ，ヒリヒリとする痛さも平つちやら，水着の跡だけ真白く残るのも夏のものである。

≪山は眠むる眠りを覚ます山怖わい≫

夏山の魅力は，若い人の憧がれでもある。ふだん下界から眺める山は，微動だにせず厳然としてその美を誇つている。毎年，この静かな山の霊に招かれ幾多の命が山神さまのいけにえとなる。静から動に移らんとする山には，人力でははかり知れない魔力がひそんでいるようだ。くれぐれも御用心。御用心。

(19)

近着統計資料案内

図書名	調査年刊行年	発行者
総記		
国勢調査報告（徳島県）	40年度	総理府統計局
〃（富山県）	〃	〃
〃（島根県）	〃	〃
〃（佐賀県）	〃	〃
〃（奈良県）	〃	〃
〃（三重県）	〃	〃
職業分類	40年	〃
産業分類	—	〃
国および地方公共団体の産業分類適用例	—	〃
統計局研究彙報	—	〃
日本統計年鑑	40年	〃
国勢調査報告（茨城県）	〃	〃
農林文献解題	—	農林省図書館
日本の統計	1965年版	総理府統計局編
出生力に及ぼす社会心理的要因とその将来動向に関する調査報告	40年度	厚生省
全国年令別人口の推計	40年	総理府統計局
都道府県人口の推計	〃	〃
産業・経済		
昭和38年工業統計表	38年	通商産業省
昭和40年の鉱工業生産活動	40年	〃
経済変動観測資料	40年3月	経済企画庁
法人企業投資予測調査	40年	〃
国際経済からみた日本経済	—	社団法人外交知識普及会
消費者世帯の買物行動	—	東京商工会議所
会社名鑑	40年版	総理府統計局
昭和38年産業連関表作成作業報告	38年	統計基準局
全国消費実態調査報告	39年	総理府統計局
工業用地，用水統計表	〃	通商産業省
家計調査参考資料	41年5月	総理府統計局
都道府県における産業連関表作成要領（第2次試案）	38年10月	統計基準局
国民所得統計年報	41年版	経済企画庁
国民生活局における消費者行政の考え方	40年11月	〃
個人企業経済調査年報	39年版	総理府統計局
百貨店販売統計年報	40年	通商産業省
昭和39年工業統計調査集計結果	39年	〃
社会・労働		
労働力調査報告	40年	総理府統計局
科学技術研究調査報告	〃	〃
就業構造基本調査報告	〃	〃

図書名	調査年刊行年	発行者
教育・文化		
文部省第92年報（新教育の歩み	39年度	文部
日本の教育統計	41年6月	〃
各都道府県		
各種統計調査縦覧	40年	群馬
工業統計調査結果報告	39年度	栃木
〃	〃	東京
北海道統計書	39年版	北海
農業地域経済地帯別農家調査一覧	1965年	兵庫
香川県のすがた	41年1月	香川
昭和41年世界大都市比較統計年報	41年	東京
県民所得推計報告	39年	福島
県民所得	〃	山形
府民の家計	40年	大阪
資料目録	—	広島
東京都住民登録人口	39年	東京
学校教育統計調査結果	40年	千葉
静岡県民所得	39年	静岡
私たちのくらし	39年版	〃
大阪府民所得	39年	大阪
鹿児島県統計年鑑	40年	鹿児島
愛知県統計年鑑	41年	愛知
茨城県		
市町村農業所得と農業生産性	40年	農林省茨城[illegible]査事務所
主要農産物統計表		〃
そ菜生産状況	41年度	農産[illegible]
茨城の工業開発	41年3月	企画[illegible]
茨城県農業の動き	—	茨城
県民所得	39年	〃
防災のしおり	〃	〃
主産地形成予測図基礎資料	〃	〃
工場適地調査A・B	40年度	〃
水戸市の消費者物価指数昭和40年の概況	41年	県統[illegible]
東京市場における茨城農業の動き	40年	構造改[illegible]
市民所得	41年	水戸
教育統計報告書	40年度	県統[illegible]
保健福祉計画策定調査	41年3月	茨城
1965年中間農業センサス結果	41年	農林省茨城[illegible]査事務所
昭和40年4月における初任給の動向	40年	茨城県経[illegible]
衛生統計要覧	39年	衛生
全国道路交通情報調査春秋成果表	40年度	土木部道[illegible]

名勝史蹟めぐり余聞

（3） 天竜院渓谷の自然美

前　田　香　径

○

県観光協会から「水戸市の観梅」，「茨城のハイ[illegible]」，「海のいばらき」，「茨城の釣」などのパンフレットが出ているし，各市町村ではまず水戸市から「[illegible]そのしおり」が印刷されているほか，大洗町で「[illegible]」，あるいは茨城交通の「沿線の観光」，潮来[illegible]「潮来」，東海村の「東海村」大子町の「袋田[illegible]」．その他それぞれ案内記を発行して，しきりに名勝史蹟の宣伝に努めているが，観光地として紹[illegible]場所はこうしたパンフレットに掲載されている[illegible]にもたくさんある。久慈郡里美村の天竜院渓谷[illegible]まさにその一つではあるまいか。

○

[illegible]渓谷の自然美は地理的条件が悪く，探訪する人は[illegible]て少いように思われる。折橋の宿を県道から東へ[illegible]川，湯小屋を過ぎると，久慈，多賀両郡の境界[illegible]連峰が，屏風のようにそびえて並ぶ。この山岳[illegible]を発する水流は時に飛瀑となり，あるいはもの[illegible]潭となる。このへんはまさに深山幽谷の情景を[illegible]している。藤田東湖はこの山径を過ぎて「奇巌在[illegible]家，新緑囲山一径斜，世上芳菲凋謝後，清泉咽処[illegible]」と即興の七言絶句を残しているが，彼のここに[illegible]のは天保12年春だつた。この道を登ると，徳川家[illegible]牧場と天竜院山荘がある。牧場は義公さま（光圀）[illegible]したもので，延宝８年夏ここにはじめて馬12頭を[illegible]，駒番２人と猟師８人を常置しておいたことが記[illegible]る。この山中に狼がたくさんいたことも記録され[illegible]，放牧した馬は，天明時代になると100頭以上[illegible]付近の田に畑に侵入して，農作物を荒し回つたた[illegible]長久保赤水の「捕野馬記」にもあるように，農民多[illegible]集して野馬狩が行なわれた。この牧場は６代藩主[illegible]さま（治保）時代に閉鎖されたが，徳川家の山荘は[illegible]寺のままに保安されている。茶亭は悠然亭と名づけられているが，周囲の風致は天然自然のままで，その幽遠なさまは県下随一といつて過言ではあるまい。

○

折橋の史家佐川城北翁に「天竜院を主題として」（昭和14年発行）の著があり，その中に，山荘の庭の一隅にある唐かねの手洗について，興味ある伝説が載つている。この手洗は，いわゆる蓮萃往生の遺品といわれるもので，直径60センチほどの石の台座の上におかれ，その中央の穴から岩清水が絶えずこんこんと噴出している蓮萃往生とは善男善女を一室に閉じこめてこの唐かねの蓮萃の下に座らせ，安楽成仏をさせたという惨酷な殺し方をしたもので，このことは大衆小説にも書かれてある。この山荘の手洗がその遺物であるかどうかはわからないが，ともあれ天竜院山荘と，その附近の渓谷の自然美は日帰りのピクニックには最適の場所であろう。観光協会はこの方の宣伝にも努めてほしいものである。

○

大能牧場に狼が多くいたことは，井上玄桐も書き残しているが，県北の山中には狼だけではなく，鹿も，猪も猿もいた。最近は全く見られなくなつたが，先年知人からムササビの剝製をたのまれて困つたことがあつた。いまもこのへんの山中にはまれにいるらしいが，テンやイタチなどもめつきり減つたらしい。中里（日立市）の山中で鷲を捕えた人を知つているが，その人もすでに70歳をこしている。獣類だけでなく鳥類も棲息圏を圧縮されて，狐狸の演ずる妖怪談などは瀘端の昔話にも聞かれなくなつたが，県北の渓谷の自然美には未だそのままの姿で残されているところが多い。禽獣の絶滅はやむを得ないとしても，この自然の風光だけは，できるだけ人工を加えないでおきたいものであるが，地理的条件の悪い天竜院渓谷などは今のところは容易に開発の手ものびないと思われる。